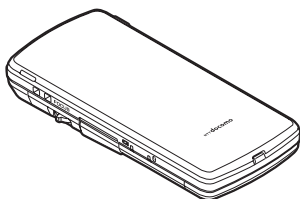
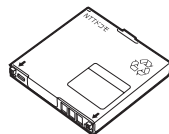
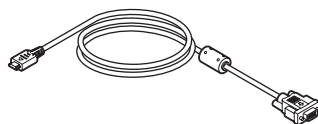
NTT docomo

プロジェクターユニット F01

取扱説明書

このたびは「プロジェクターユニット F01」をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をお読みの上、正しくお使いください。お読みになった後は、大切に保管してください。

- ご使用のFOMA端末が対応機種であることを、FOMA端末の取扱説明書でご確認ください。また、ご使用前に、FOMA端末の取扱説明書をあわせてご覧ください。
- プロジェクターユニット F01は海外ではご利用になれません。
- この「取扱説明書」の本文中においては、「プロジェクターユニット F01」を「プロジェクター」と表記しています。
- 本書に掲載している画面およびイラストはイメージです。実際の製品とは異なる場合があります。
- 仕様および外観は、性能向上のため予告なく変更することがあります。

付属品について

- 本書の内容の一部、または全部を無断転載することは、禁止されています。
- 本書の内容やホームページのURLおよび記載内容は、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書についての最新情報は、ドコモのホームページよりダウンロードできます。
  http://www.nttdocomo.co.jp/support/trouble/manual/download/index.html
  なお、URLおよび掲載内容については、将来予告なしに変更することがあります。

目　次

はじめに

準備

使いかた

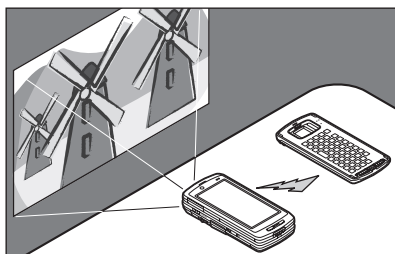
その他

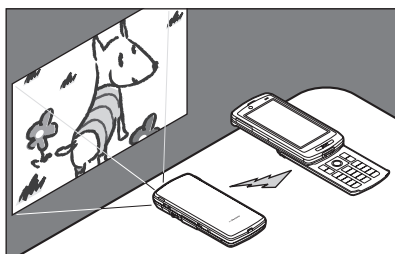
はじめに

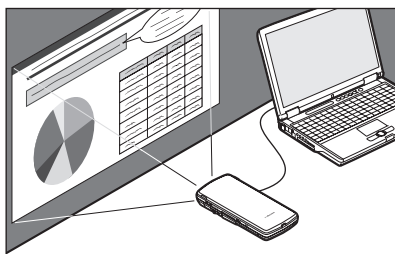
プロジェクターユニット F01でできること

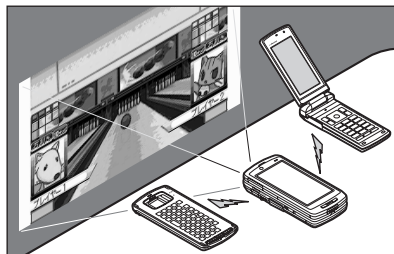
プロジェクターユニット F01は、F-04Bや外部機器を接続してさまざまなデータを投写することができます。

●F-04Bと接合する→P23

F-04Bと接合してワンセグなどを見ることができます。ディスプレイユニットだけでなく、分離したキーユニットからの操作も行うことができます。

●F-04BとBluetooth®接続する→P24

F-04BとBluetooth接続することで、F-04Bと接合せずに静止画などを見ることができます。

●パソコンやデジタルカメラを接続する→P25

パソコンやデジタルカメラなどの外部機器のデータを投写できます。

●対戦ゲームをする

F-04Bと接合した状態でｉアプリを投写できます。F-04Bと他のBluetooth対応FOMA端末をBluetooth接続し、大画面で対戦ゲームを楽しむことができます。
対戦ゲームを楽しむ場合、事前に相手の端末情報を登録してプロジェクターに投影した後に相手との通信を開始してください。

✔お知らせ

- 投写された画像は、F-04Bのディスプレイの横画面表示と同じです。

❖ 対応機種について

プロジェクターユニット F01はF-04B用のプロジェクターです。なお、パソコンやデジタルカメラなどの外部機器を接続することができます。

❖ 出力可能なデータについて

F-04Bから出力可能なデータは次のとおりです。接続のしかたによって出力可能なデータは異なります。

- F-04Bとプロジェクターユニットを接合したときには、F-04Bのディスプレイのすべての表示が出力可能です。
- F-04Bとプロジェクターユニットを Bluetooth接続したときには、静止画（JPEG形式）と文書データ（Word、Excel、PowerPoint）の出力が可能です。

✔お知らせ

- 外部機器から出力可能なデータは外部機器によって異なります。

安全上のご注意（必ずお守りください）

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。また、お読みになった後は、大切に保管してください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ずお守りください。
- 次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

表示	内容
危険	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
警告	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
注意	この表示は、取り扱いを誤った場合、「傷害を負う可能性が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される」内容です。

- 次の絵表示の区分は、お守りいただく内容を説明しています。

絵表示	内容
禁止	禁止（してはいけないこと）を示します。
分解禁止	分解してはいけないことを示す記号です。
濡れ手禁止	濡れた手で扱ってはいけないことを示す記号です。
水濡れ禁止	水がかかる所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示す記号です。

絵表示	内容
指示	指示に基づく行為に対する強制（必ず実行していただくこと）を示します。
電源プラグを抜く	電源プラグをコンセントから抜いていただくことを示す記号です。

■「安全上のご注意」は次の5項目に分けて説明しています。

◆プロジェクター、電池パック、アダプタの取り扱い（共通）

⚠危険

禁止

火のそば、直射日光の当たる場所、炎天下の車内などの高温の場所で使用、保管、放置しないでください。

機器の変形、故障や、電池パックの漏液、発熱、破裂、発火、性能や寿命の低下の原因となります。また、ケースの一部が熱くなり、やけどの原因となることがあります。

分解禁止

分解、改造をしないでください。また、ハンダ付けしないでください。

火災、けが、感電などの事故または故障の原因となります。また、電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。

水濡れ禁止

濡らさないでください。

水やペットの尿などの液体が入ると発熱、感電、火災、故障、けがなどの原因となります。使用場所、取り扱いにご注意ください。

指示

プロジェクターに使用する電池パックおよびアダプタは、NTT ドコモが指定したものを使用してください。

指定品以外のものを使用した場合は、プロジェクターおよび電池パックやその他の機器を漏液、発熱、破裂、発火、故障させる原因となります。

⚠警告

禁止

電子レンジなどの加熱調理機器や高圧容器に、電池パック、プロジェクターやアダプタを入れないでください。

電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させたり、プロジェクター、アダプタの発熱、発煙、発火や回路部品を破壊させる原因となります。

禁止

強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。

電池パックの漏液、発熱、破裂、発火や機器の故障、火災の原因となります。

禁止

充電端子や外部接続端子に導電性異物（金属片、鉛筆の芯など）が触れないようにしてください。また、内部に入れないようにしてください。

ショートによる火災や故障の原因となります。

指示

使用中、充電中、保管時に、異臭、発熱、変色、変形など、いままでと異なるときは、直ちに次の作業を行ってください。

1. 電源プラグをコンセントやシガーライタソケットから抜く。
2. プロジェクターの電源を切る。
3. 電池パックをプロジェクターから取り外す。

そのまま使用すると発熱、破裂、発火または電池パックの漏液の原因となります。

⚠注意

禁止

ぐらついた台の上や傾いた場所など、不安定な場所には置かないでください。

落下して、けがや故障の原因となります。

禁止

湿気やほこりの多い場所や高温になる場所には、保管しないでください。

故障の原因となります。

指示

子供が使用する場合は、保護者が取り扱いの内容を教えてください。また、使用中においても、プロジェクターの発光部を直接覗かないよう、指示どおりに使用しているかを特にご注意ください。

視力障害やけがなどの原因となります。

指示

乳幼児の手の届かない場所に保管してください。

誤って飲み込んだり、けがなどの原因となったりします。

指示

プロジェクターを長時間連続使用される場合には特にご注意ください。

充電しながら投写を長時間行うとプロジェクターや電池パック・アダプタの温度が高くなることがあります。
温度の高い部分に直接長時間触れるとお客様の体質や体調によっては肌に赤みやかゆみ、かぶれなどが生じたり、低温やけどの原因となる恐れがあります。

◆プロジェクターの取り扱い

警告

禁止

使用中はレンズを覗かないでください。

視力障害の原因となります。

禁止

プロジェクターの発光部を人に向けて点灯発光させないでください。

視力障害の原因となります。また、目がくらんだり驚いたりしてけがなどの事故の原因となります。

禁止

エアバッグの近くのダッシュボードなど、エアバッグの展開による影響が予想される場所にプロジェクターを置かないでください。

エアバッグが展開した場合、プロジェクターが本人や他の人などに当たり、けがなどの事故や故障および破損の原因となります。

禁止

医用電気機器などを装着している場合は、胸ポケットや内ポケットへの装着はおやめください。

プロジェクターを医用電気機器などの近くで使用すると、医用電気機器などの故障の原因となる恐れがあります。

指示

航空機内や病院など、使用を禁止された区域では、プロジェクターの電源を切ってください。

電子機器や医用電気機器に影響を与える場合があります。
医療機関内における使用については各医療機関の指示に従ってください。また、航空機内での使用などの禁止行為をした場合、法令により罰せられることがあります。

指示

屋外で使用中に、雷が鳴り出したら、すぐに電源を切って安全な場所に移動してください。

落雷、感電の原因となります。

指示

高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、プロジェクターの電源を切ってください。

電子機器が誤動作するなどの影響を与える場合があります。
※ ご注意いただきたい電子機器の例
補聴器、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器、その他の医用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他の自動制御機器など。
植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器、その他の医用電気機器をご使用される方は、当該の各医用電気機器メーカもしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

指示

万が一、レンズを破損した際には、割れたガラスや露出したプロジェクターの内部にご注意ください。

レンズの表面には、プラスチックパネルを使用しガラスが飛散りにくい構造となっておりますが、誤って割れた破損部や露出部に触れますと、けがの原因となります。

⚠注意

禁止

ストラップなどを持ってプロジェクターを振り回さないでください。

本人や他の人などに当たり、けがなどの事故や故障および破損の原因となります。

禁止

箱に入れるなど、密閉した状態で使用しないでください。

内部の温度が上昇し、発熱、発火や機器の故障、火災の原因となります。

指示

お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。異状が生じた場合は、直ちに使用をやめ、医師の診療を受けてください。
下記の箇所に金属を使用しています。

使用箇所	材　質	表面処理
電池パックコネクタ端子	ベリリウム銅	金メッキ
ネジ	鋼	亜鉛メッキ
外部接続端子	SUS	金メッキ
VIDEO端子	りん青銅	錫メッキ
銘板貼付け部	プリント基板	金メッキ
ユニット接続端子	りん青銅	金メッキ
リアケース	マグネシウム	塗装

指示

長時間使用しない場合は、電池パックを外してください。

火災、故障の原因となる場合があります。

◆電池パックの取り扱い

■ 電池パックのラベルに記載されている表示により、電池の種類をご確認ください。

表　示	電池の種類
Li-ion 00	リチウムイオン電池

⚠危険

禁止

端子に針金などの金属類を接触させないでください。また、金属製ネックレスなどと一緒に持ち運んだり、保管したりしないでください。

電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。

禁止

電池パックをプロジェクターに取り付けるときに、うまく取り付けできない場合は、無理に取り付けないでください。また、電池パックの向きを確かめてから取り付けてください。

電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。

禁止

火の中に投下しないでください。

電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。

禁止

釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。

電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。

指示

電池パック内部の液体が目の中に入ったときは、こすらず、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の診療を受けてください。

失明の原因となります。

⚠警告

禁止

落下による変形や傷など外部からの衝撃により電池パックに異常が見られた場合は、直ちに使用をやめてください。

電池パックの漏液、発熱、破裂、発火や機器の故障、火災の原因となります。

指示

所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電をやめてください。

電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。

指示

電池パックが漏液したり、異臭がするときは、直ちに使用をやめて火気から遠ざけてください。

漏液した液体に引火し、発火、破裂の原因となります。

指示

ペットが電池パックに噛みつかないようご注意ください。

電池パックの漏液、発熱、破裂、発火や機器の故障、火災の原因となります。

⚠注意

禁止

一般のゴミと一緒に捨てないでください。

発火、環境破壊の原因となります。不要となった電池パックは、端子にテープなどを貼り、絶縁してからドコモショップなど窓口にお持ちいただくか、回収を行っている市町村の指示に従ってください。

禁止

濡れた電池パックを充電しないでください。

電池パックを発熱、発火、破裂させる原因となります。

指示

電池パック内部の液体が皮膚や衣服に付着した場合は、直ちに使用をやめてきれいな水で十分に洗い流してください。

皮膚に傷害を起こす原因となります。

◆アダプタの取り扱い

⚠警告

禁止

アダプタのコードや電源コードが傷んだら使用しないでください。

感電、発熱、火災の原因となります。

禁止

ACアダプタは、風呂場などの湿気の多い場所では使用しないでください。

感電の原因となります。

禁止

DCアダプタはマイナスアース車専用です。プラスアース車には使用しないでください。

火災の原因となります。

禁止

雷が鳴り出したら、プロジェクター、アダプタには触れないでください。

落雷、感電の原因となります。

禁止

コンセントやシガーライタソケットにつながれた状態で充電端子をショートさせないでください。また、充電端子に手や指など、身体の一部を触れさせないでください。

火災、故障、感電、傷害の原因となります。

禁止

充電中は、アダプタを安定した場所に置いてください。また、アダプタを布や布団で覆ったり、包んだりしないでください。

プロジェクターが外れたり、熱がこもり、火災、故障の原因となります。

禁止

アダプタのコードや電源コードの上に重いものをのせたりしないでください。

感電、火災の原因となります。

濡れ手禁止

濡れた手でアダプタのコード、コンセントに触れないでください。

感電の原因となります。

指示

指定の電源、電圧で使用してください。

誤った電圧で使用すると火災や故障の原因となります。
ACアダプタ：AC100V
DCアダプタ：DC12V・24V
（マイナスアース車専用）

指示

DCアダプタのヒューズが万が一切れた場合は、必ず指定のヒューズを使用してください。

指定外のヒューズを使用すると、火災、故障の原因となります。指定ヒューズに関しては、個別の取扱説明書でご確認ください。

指示

電源プラグについたほこりは、拭き取ってください。

火災の原因となります。

指示

ACアダプタをコンセントに差し込むときは、金属製ストラップなどの金属類を触れさせないように注意し、確実に差し込んでください。

感電、ショート、火災の原因となります。

指示

アダプタをコンセントやシガーライタソケットから抜く場合は、アダプタのコードや電源コードを無理に引っ張らず、電源プラグを持って抜いてください。

コードを引っ張るとコードが傷つき、感電、火災の原因となります。

電源プラグを抜く

長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

感電、火災、故障の原因となります。

電源プラグを抜く

万が一、水などの液体が入った場合は、直ちにコンセントやシガーライタソケットから電源プラグを抜いてください。

感電、発煙、火災の原因となります。

電源プラグを抜く

お手入れの際は、電源プラグをコンセントやシガーライタソケットから抜いて行ってください。

感電の原因となります。

◆医用電気機器近くでの取り扱い

■ 本記載の内容は「医用電気機器への電波の影響を防止するための携帯電話端末等の使用に関する指針」（電波環境協議会）に準ずる。

⚠警告

指示

医療機関の屋内では次のことを守って使用してください。

- 手術室、集中治療室（ICU）、冠状動脈疾患監視病室（CCU）にはプロジェクターを持ち込まないでください。
- 病棟内では、プロジェクターの電源を切ってください。
- ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は、プロジェクターの電源を切ってください。
- 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。

指示

満員電車の中など混雑した場所では、付近に植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着している方がいる可能性がありますので、プロジェクターの電源を切るようにしてください。

電波により植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。

指示

植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着されている場合は、装着部からプロジェクターは22cm以上離して携行および使用してください。

電波により植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。

指示

自宅療養などにより医療機関の外で、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器以外の医用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医用電気機器メーカなどにご確認ください。

電波により医用電気機器の作動に影響を与える場合があります。

取り扱い上の注意

◆ 共通のお願い

- **水をかけないでください。**
  - プロジェクター、電池パック、アダプタは防水仕様にはなっておりません。風呂場など、湿気の多い場所でのご使用や、雨などがかかることはおやめください。また身に付けている場合、汗による湿気により内部が腐食し故障の原因となります。調査の結果、これらの水濡れによる故障と判明した場合、保証対象外となり修理できないことがありますので、あらかじめご了承願います。なお、保証対象外ですので修理を実施できる場合でも有料修理となります。
- **お手入れは乾いた柔らかい布（めがね拭きなど）で拭いてください。**
  - 乾いた布などで強く擦ると、傷がつく場合があります。取り扱いには十分ご注意いただき、お手入れは乾いた柔らかい布（めがね拭きなど）で拭いてください。また、水滴や汚れなどが付着したまま放置すると、シミになったり、コーティングがはがれたりすることがあります。
  - アルコール、シンナー、ベンジン、洗剤などで拭くと、印刷が消えたり、色があせたりすることがあります。
- **端子は時々乾いた綿棒などで清掃してください。**
  - 端子が汚れていると接触が悪くなり、電源が切れたり充電不十分の原因となったりしますので、端子を乾いた綿棒などで拭いてください。
    また、清掃する際には端子の破損に十分ご注意ください。
- **エアコンの吹き出し口の近くに置かないでください。**
  - 急激な温度の変化により結露し、内部が腐食し故障の原因となります。
- **プロジェクターや電池パックなどに無理な力がかからないように使用してください。**
  - 多くのものが詰まった荷物の中に入れたり、衣類のポケットに入れて座ったりすると内部基板、電池パックなどの破損、故障の原因となります。また、外部接続機器を外部接続端子に差した状態の場合、コネクタ破損、故障の原因となります。

- プロジェクター、FOMA端末、アダプタに添付されている個別の取扱説明書をよくお読みください。

◆ プロジェクターについてのお願い

- **極端な高温、低温は避けてください。**
  - 温度は5℃～30℃、湿度は45%～85%の範囲でご使用ください。
- **一般の電話機やテレビ・ラジオなどをお使いになっている近くで使用すると、影響を与える場合がありますので、なるべく離れた場所でご使用ください。**
- **プロジェクターを落としたり、衝撃を与えたりしないでください。**
  - 故障、破損の原因となります。
- **レンズに傷や汚れをつけないでください。**
  - きれいに投写できなくなったり、変形や故障の原因となったりします。
- **たばこの煙にさらされる場所で使用したり、保管したりしないでください。**
  - レンズに汚れが付着して、画面が暗くなったりする原因となります。
- **長時間連続して使用しないでください。**
  - 故障の原因となります。
- **外部接続端子に外部接続機器を接続する際に斜めに差したり、差した状態で引っ張ったりしないでください。**
  - 故障、破損の原因となります。
- **移動するときは、プロジェクターをパソコンやデジタルカメラから取り外してください。**
  - 故障、破損の原因となります。
- **ストラップなどを挟んだまま、F-04Bに接合しないようにしてください。**
  - 故障、破損の原因となります。
- **使用中、充電中、プロジェクターは温かくなりますが、異常ではありません。そのままご使用ください。**
- **レンズを直射日光の当たる場所に放置しないでください。**
  - 素子の退色・焼付きを起こす場合があります。
- **通常は外部接続端子キャップをはめた状態でご使用ください。**
  - ほこり、水などが入り故障の原因となります。
- **バッテリーカバーを外したまま使用しないでください。**
  - 電池パックが外れたり、故障、破損の原因となったりします。
- **プロジェクターに磁気を帯びたものを近づけないでください。**
  - 強い磁気を近づけると誤作動を引き起こす可能性があります。

◆ 電池パックについてのお願い

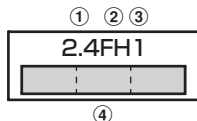
- **電池パックは消耗品です。**
  - 使用状態などによって異なりますが、十分に充電しても使用時間が極端に短くなったときは電池パックの交換時期です。指定の新しい電池パックをお買い求めください。
- **充電は、適正な周囲温度（5℃～30℃）の場所で行ってください。**
- **初めてお使いのときや、長時間ご使用にならなかったときは、ご使用前に必ず充電してください。**
- **電池パックの使用時間は、使用環境や電池パックの劣化度により異なります。**
- **電池パックの使用条件により、寿命が近づくにつれて電池パックが膨れる場合がありますが問題ありません。**
- **電池パックを長期保管される場合は、次の点にご注意ください。**
  - 満充電状態（充電完了後すぐの状態）での保管
  - 電池残量なしの状態（本体の電源が入らない程消費している状態）での保管

  電池パックの性能や寿命を低下させる原因となります。

◆ アダプタについてのお願い

- **充電は、適正な周囲温度（5℃～30℃）の場所で行ってください。**
- **次のような場所では、充電しないでください。**
  - 湿気、ほこり、振動の多い場所
  - 一般の電話機やテレビ・ラジオなどの近く
- **充電中、アダプタが温かくなることがありますが、異常ではありません。そのままご使用ください。**
- **DCアダプタを使用して充電する場合は、自動車のエンジンを切ったまま使用しないでください。**
  - 自動車のバッテリーを消耗させる原因となります。
- **抜け防止機構のあるコンセントをご使用の場合、そのコンセントの取扱説明書に従ってください。**
- **強い衝撃を与えないでください。また、充電端子を変形させないでください。**
  - 故障の原因となります。

◆ Bluetooth機能を使用する場合のお願い

- **プロジェクターは、Bluetooth機能をF-04Bからの静止画や文書データの受信のために使用しており、それ以外の用途では使用できません。**
- **Bluetooth機能を使用した通信時のセキュリティとして、Bluetooth標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、利用の際にはご注意ください。**
- **Bluetooth機能を使用した通信時にデータや情報の漏洩が発生しましても、責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。**
- **周波数帯について**
  プロジェクターのBluetooth機能が使用する周波数帯は次のとおりです。

① 2.4：2400MHz帯を使用する無線設備を表します。
② FH：変調方式がFH-SS方式であることを示します。
③ 1：想定される与干渉距離が10m以下であることを示します。
④ ［帯域表示］：2400MHz～2483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味します。

Bluetooth機器使用上の注意事項

本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの家電製品や産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「他の無線局」と略します）が運用されています。

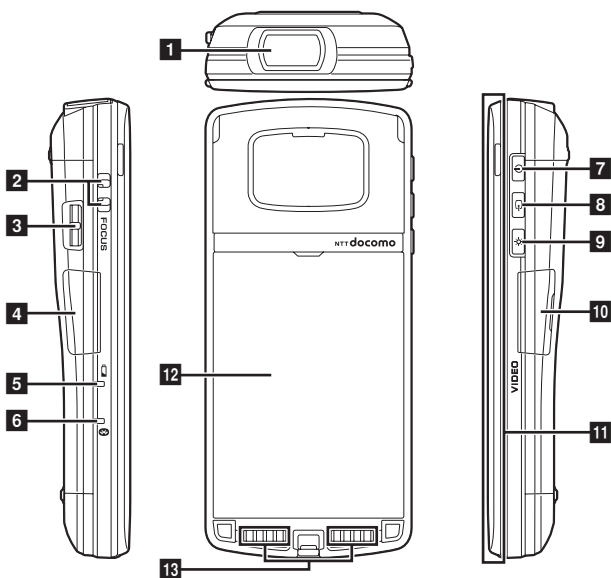
1. 本製品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万が一、本製品と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、「電源を切る」など電波干渉を避けてください。
3. その他、ご不明な点につきましては、取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。

◆ 注意

- **改造されたプロジェクターは絶対に使用しないでください。改造した機器を使用した場合は電波法に抵触します。**
  プロジェクターは、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明等を受けており、その証として「技適マーク Ⓡ」がプロジェクターの銘版シールに表示されております。
  プロジェクターのネジを外して内部の改造を行った場合、技術基準適合証明等が無効となります。
  技術基準適合証明等が無効となった状態で使用すると、電波法に抵触しますので、絶対に使用されないようにお願いいたします。
- **自動車などを運転中の使用にはご注意ください。**
  転倒や事故の原因となります。
- **Bluetooth機能は日本国内で使用してください。**
  プロジェクターのBluetooth機能は日本国内での無線規格に準拠し認定を取得しています。
  海外でご使用になると罰せられることがあります。

◆ 電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報処理装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

各部の名称と機能

※中央下の図はユニットカバーを取り外した状態です。

1 レンズ

データを投写します。

2 ストラップ取付口

3 ピント調整ホイール

画面のピントを調整します。

4 外部接続端子

別売のACアダプタやFOMA 充電機能付USB接続ケーブルなどを接続します。

5 電池ランプ→P14

6 Bluetoothランプ→P14

7 電源キー

電源のオン／オフを行います。

8 入力切替キー

映像信号の入力を切り替えます。

9 明るさ調整キー

画面の明るさを調整します。

10 VIDEO端子

アナログRGBケーブル（試供品）やビデオケーブル（試供品）などを接続します。

11 ユニットカバー

⑫ ユニット用バッテリーカバー

⑬ ユニット接続端子

F-04Bのディスプレイユニットとの接合用に使う端子です。

◆ランプの表示

ランプの色や点灯／点滅でプロジェクターの状態を確認できます。

電池ランプ

ランプの色	ランプの状態	プロジェクターの状態
青	点灯	電池残量十分
黄	点灯	電池残量少
黄	点滅	電池残量ほとんどなし（充電が必要）
赤	点灯	充電中
緑	点灯	USBケーブルでパソコンと接続中 （ソフトウェア更新時）

Bluetoothランプ

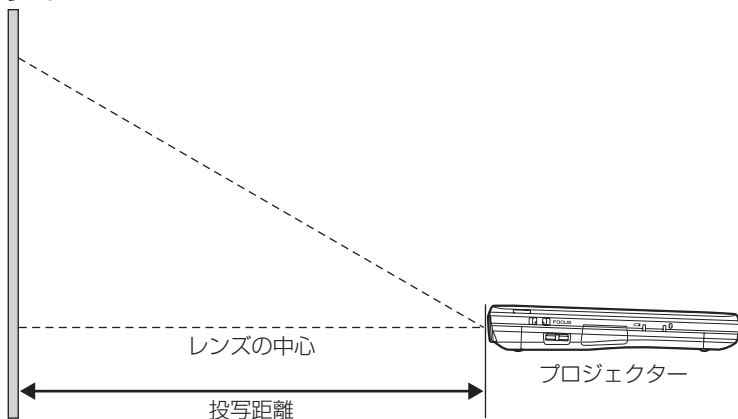
ランプの色	ランプの状態	プロジェクターの状態
青	点滅	Bluetooth接続中
赤	点滅	Bluetooth未接続

◆入力モード

プロジェクターへ入力する映像によって、プロジェクター側の入力モードを切り替える必要があります。入力モードのマークはプロジェクターの投写画面に表示されます。それぞれのマークの意味は次のとおりです。

入力モード	接続機器と画像サイズ
F-04B ユニット接合	F-04Bと接合して投写するとき
F-04B Bluetooth	F-04BとBluetooth接続して投写するとき
ビデオケーブル VGA	約4:3比率の映像を出力するデジタルカメラなどの外部接続機器と接続して投写するとき
ビデオケーブル FWVGA	約16:9比率の映像を出力するデジタルビデオなどの外部接続機器と接続して投写するとき
アナログRGBケーブル VGA	VGA（640×480）出力に対応したパソコンと接続して投写するとき
アナログRGBケーブル FWVGA	FWVGA（848×480）出力に対応したパソコンと接続して投写するとき

投写距離とスクリーンサイズ

プロジェクターは水平な場所に設置してください。

- プロジェクターのレンズの中心と同じ高さが画面の下端の高さになります。
- プロジェクターの先端からスクリーンまでの距離が投写距離です。
- スクリーンに投写される画像は周りが明るいと見にくいことがあります。

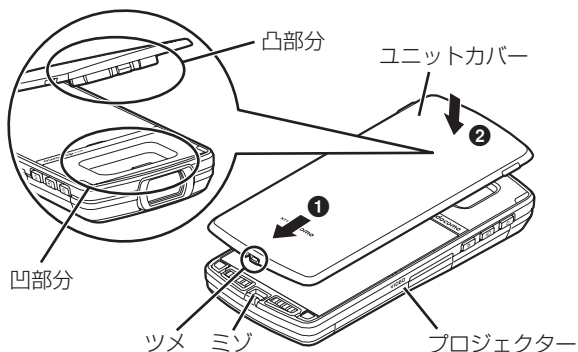
スクリーンサイズ	投写距離
約5inch（縦6cm×横11cm）	約23cm
約20inch（縦25cm×横44cm）	約96cm
約40inch（縦50cm×横89cm）	約194cm
約66inch（縦82cm×横146cm）	約320cm

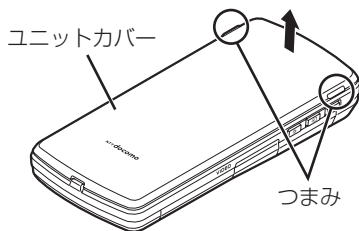
ユニットカバーの取り付け／取り外し

F-04Bと接合していないときは、プロジェクターにユニットカバーを取り付けることができます。

◆取り付ける

1 ユニットカバーのツメをプロジェクターのミゾに合わせて、❶の方向に差し込む

2 プロジェクターの凹部分にユニットカバーの凸部分を合わせて、❷の方向に押し付けて取り付ける

◆取り外す

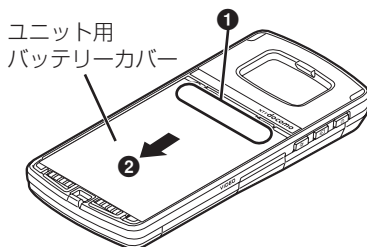
1 ユニットカバーのつまみをつまんで、矢印の方向に持ち上げて取り外す

✔**お知らせ**

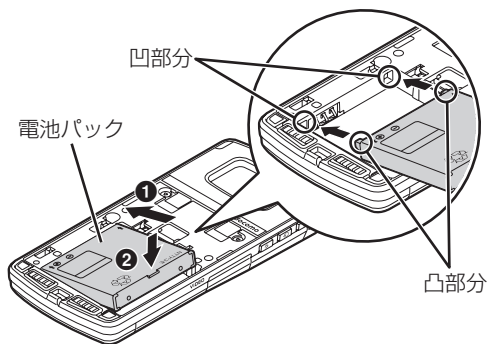
- プロジェクターを持ち運ぶ際は、ユニットカバーを取り付けることをおすすめします。ユニット接続端子部分に硬い物がぶつかると、傷がついたり、故障や破損の原因となります。

電池パックの取り付け／取り外し

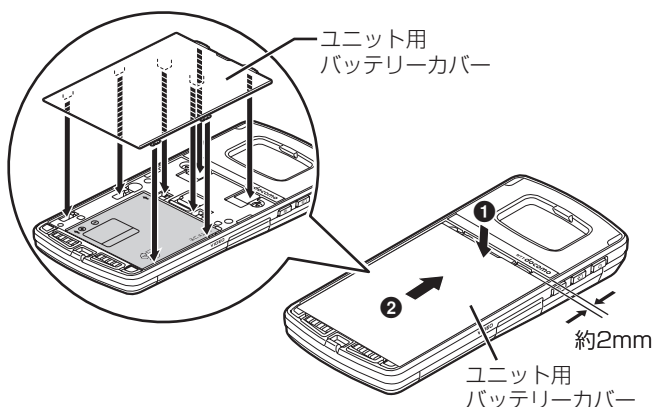
電池パックの取り付け／取り外しは、電源を切ってから、手に持って行ってください。

◆取り付ける

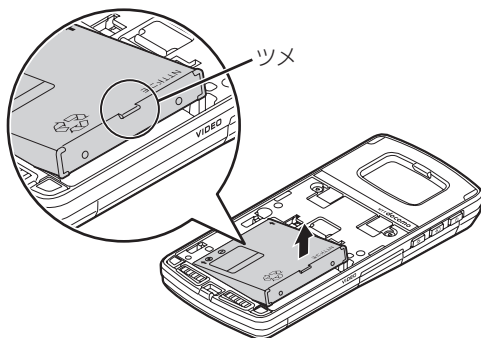
1 ユニット用バッテリーカバーの❶の部分を指で押しながら、❷の方向にスライドさせて外す

2 電池パックのラベル面を上にして、電池パックの凸部分をプロジェクターの凹部分に合わせて❶の方向に差し込み、さらに、❷の方向に押し付けてはめ込む

準備

3 ユニット用バッテリーカバーを約2mmずらしたまま、バッテリーカバーの8箇所のツメをプロジェクターのミゾに合わせる

4 プロジェクターとユニット用バッテリーカバーにすき間が生じないように❶の方向に押さえながら、❷の方向にスライドさせて取り付ける

準備

◆取り外す

1 取り付けかたの操作1を行う

2 電池パックのツメをつまんで、矢印の方向に持ち上げて取り外す

✔お知らせ

- 電池パックを無理に取り付けようとするとプロジェクターの端子が壊れる場合があるため、ご注意ください。
- 上記以外の方法で取り付け／取り外しを行ったり、力を入れすぎたりすると、プロジェクターやユニット用バッテリーカバーが破損する恐れがあります。

充電

お買い上げ時は、電池パックは十分に充電されていません。必ず専用のACアダプタで充電してからお使いください。

❖ 充電時間（目安）と使用時間（目安）

充電時間	ACアダプタ：約150分 DCアダプタ：約150分
連続投写時間	約120分（明るさ「標準」） 約160分（明るさ「最低」）

- 充電時間とは、プロジェクターの電源を切って、電池パックが空の状態から充電したときの目安です。プロジェクターの電源を入れて充電した場合、充電時間は長くなります。
- 連続投写時間とは、F-04Bと接合して投写した場合の使用時間です。

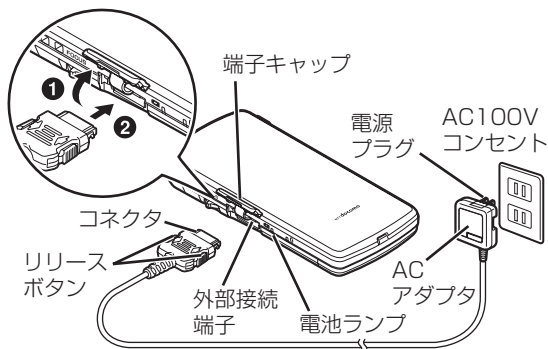
❖ 電池パックの寿命について

- 電池パックは消耗品です。充電を繰り返すごとに、1回で使える時間が次第に短くなっていきます。
- 1回で使える時間がお買い上げ時に比べて半分程度になったら、電池パックの寿命が近づいていますので、早めに交換することをおすすめします。また、電池パックの使用条件により、寿命が近づくにつれて電池パックが膨れる場合がありますが問題ありません。
- 充電しながらプロジェクターを使用すると、電池パックの寿命が短くなることがあります。

◆ ACアダプタで充電する

1 プロジェクターの外部接続端子の端子キャップを開き（❶）、ACアダプタのコネクタを矢印の表記面を上にして水平に差し込む（❷）

2 ACアダプタの電源プラグを起こし、AC100Vコンセントへ差し込む

電池ランプが赤色に点灯し、充電が始まります。充電が終わると電池ランプは消灯します（プロジェクターの電源が入っている場合は、充電が終わると青色に点灯します）。

3 充電が終わったら、電源プラグをコンセントから抜き、コネクタの両側のリリースボタンを押しながら、プロジェクターから水平に引き抜く

✔お知らせ

- ACアダプタのコネクタを抜き差しする際は、コネクタ部分に無理な力がかからないようゆっくり確実に行ってください。取り外すときは、必ずリリースボタンを押しながら水平に引き抜いてください。無理に引き抜こうとすると故障の原因となります。
- 電池残量は、電池ランプの表示で確認してください。→P14
- ACアダプタを接続して長時間プロジェクターを使用し続けると温度上昇のため充電が停止し、電池切れを起こす場合があります。
- プロジェクターとF-04Bを接合している状態で、プロジェクターまたはF-04BにACアダプタを接続している場合は、ACアダプタを接続している側の充電が完了するともう一方を充電します。ただし、ACアダプタを接続している側の電池残量が減少すると、ACアダプタを接続している側の充電に切り替わります。
- プロジェクターとF-04Bを接合している状態でも、プロジェクターまたはF-04BのどちらにもACアダプタを接続していない場合は、電源の供給は行われません。

電源を入れる

1 ⏻（2秒以上）

電池ランプが点灯します。電池ランプが黄色で点滅した場合は電池残量が少なくなっているため、充電してください。→P19

❖ 電源の切りかた

1 ⏻（2秒以上）

接合／接続

◆F-04Bと接合する

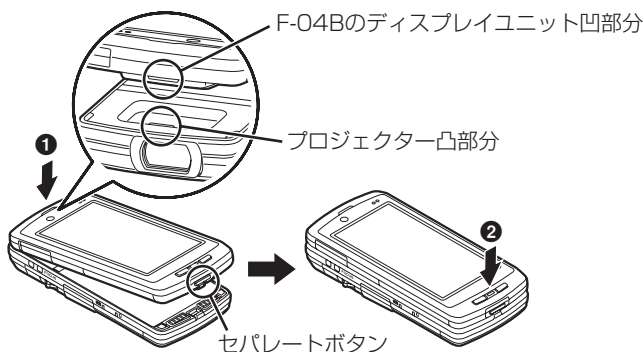
F-04Bのディスプレイユニットと接合します。
プロジェクターにユニットカバーを取り付けている場合は、ユニットカバーを取り外してください。→P16

1 プロジェクターの電源を入れる**→P20**

2 F-04Bのディスプレイユニットとキーユニットを分離する

- 分離のしかたについてはF-04Bの取扱説明書をご覧ください。

3 プロジェクターの凸部分とF-04Bのディスプレイユニット裏面の凹部分を❶の方向に合わせるようにしてユニットを重ね、セパレートボタン部分が「カチッ」と音がして固定されるまで❷の方向に押す

- プロジェクターとF-04Bを初めて接合したときには、プロジェクターユニットの登録が完了した旨のメッセージが表示されます。

❖分離のしかた

1 F-04Bのディスプレイユニットのセパレートボタンを押し、ディスプレイユニットを持ち上げる

✔お知らせ

- 分離／接合時に無理な力を加えないでください。破損の原因となります。
- 初回の接合時には、プロジェクターがBluetooth機器としてF-04Bに登録されます。
- F-04Bからは最後に登録されたプロジェクターでのみBluetooth接続を使った投写ができます。

◆F-04BとBluetooth接続する

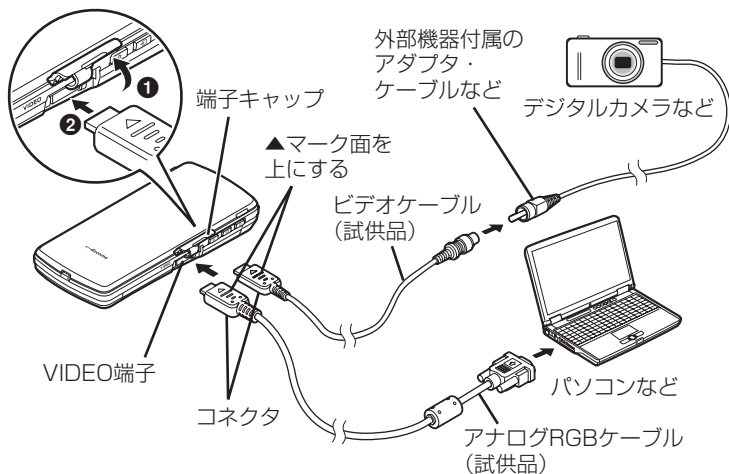
F-04BとBluetooth接続して使用する場合は、プロジェクターがBluetooth機器として登録されている必要があります。
登録は、プロジェクターを初めてF-04Bと接合したときに自動的に行われます。
→P21

✔お知らせ

- F-04Bと接合している状態でもBluetooth接続することができます。

◆パソコンやデジタルカメラを接続する

お使いのパソコンやデジタルカメラがプロジェクターに対応しているかどうかは、「主な仕様」をご覧ください。→P30

1. **プロジェクターの電源を入れる→P20**
2. **プロジェクターのVIDEO端子の端子キャップを開き（❶）、アナログRGBケーブル（試供品）またはビデオケーブル（試供品）のプロジェクター側のコネクタを、▲マーク面を上にして差し込む（❷）**
3. **[⊡]を押して入力モードを切り替える→P14**
4. **アナログRGBケーブル（試供品）またはビデオケーブル（試供品）を外部機器に接続する**

データの投写

◆F-04Bと接合してデータを投写する

1 F-04Bと接合する→P21

2 F-04Bの[キー]を押し、データ出力状態にする

F-04Bからの映像信号を受信し、F-04Bのデータが投写されます。

- 公共モード（ドライブモード）を設定するかどうかの確認画面が表示されたときは、「はい」または「いいえ」を選択します。公共モード（ドライブモード）についてはF-04Bの取扱説明書をご覧ください。
- プロジェクター投写中に電話着信・メール着信があってもF-04Bのディスプレイ表示には切り替わりません。
- プロジェクターの投写をF-04Bのディスプレイ表示に切り替えるには、F-04Bで「MENU▶6LifeKit▶#プロジェクターユニット▶ディスプレイ切替」と操作します。
- F-04Bで「MENU▶6LifeKit▶#プロジェクターユニット▶プロジェクターユニット切替」と操作しても、プロジェクターの投写とF-04Bのディスプレイ表示の切替を行うことができます。
- F-04Bの操作についてはF-04Bの取扱説明書をご覧ください。
- F-04Bと接合して投写すると、自動的に入力モードが「F-04B ユニット接合（F-04B ユニット接合）」に切り替わります。
- F-04Bとプロジェクターが接合されていて、入力モードが「F-04B ユニット接合（F-04B ユニット接合）」の時、分離すると自動的に入力モードが「F-04B Bluetooth（F-04B Bluetooth）」に切り替わります。

3 投写を終了する場合は、プロジェクターの電源を切る

❖投写中のF-04Bのディスプレイ表示について

プロジェクター投写中は、F-04Bのディスプレイに操作用画面が表示されます。表示された各キーにタッチしてデータを操作できます。

✔**お知らせ**

- F-04Bと接合してデータを投写している場合は、F-04BとBluetooth接続してデータを投写することができません。
- 音が鳴ったり、画像が表示されたりしているときに、プロジェクターの投写とF-04Bのディスプレイ表示を切り替えると、音声や画像が途切れることがあります。また、ワンセグの録画中にプロジェクターの投写とF-04Bのディスプレイ表示の切り替えを行うと、録画されたデータの音声や画像が乱れることがあります。
- 表示する画像によってはちらつきや色ムラが見える場合があります。

◆F-04BとBluetooth接続してデータを投写する

初めてF-04Bとプロジェクターを接合すると自動的にBluetoothの登録が行われ、F-04BとプロジェクターをBluetooth接続できるようになります。→P22
F-04Bとプロジェクターの接合方法→P21

1 プロジェクターの電源を入れる→P20

2 [入力]を押して入力を切り替える→P14

3 F-04Bを以下のように操作してデータ出力状態にする
F-04B側の操作：[MENU]▶[6]LifeKit▶[#]プロジェクターユニット▶Bluetooth送信▶データを選択▶「投影」にタッチ

F-04BとBluetooth接続され、Bluetoothランプが青色で点滅し、F-04Bのデータが投写されます。

- データを選択した後に、F-04Bの[●]を押してもプロジェクターに投写できます。
- データ量によっては、投写されるまでに数秒かかる場合があります。

4 投写を終了する場合は、プロジェクターの電源を切る

✔**お知らせ**

- F-04BとBluetooth接続してデータを投写している場合は、F-04Bと接合してデータを投写することができません。
- 入力モードを「F-04B Bluetooth（F-04B Bluetooth）」に切り替えると、プロジェクターがBluetooth待機状態となり、電波が発信されます。
- F-04Bが、キーユニットとBluetooth接続待機しているときには、F-04BとプロジェクターはBluetooth接続できません。F-04Bで「[MENU]▶[6]LifeKit▶[*]Bluetooth▶登録機器リスト」と操作し、キーユニットにカーソルを合わせてサブメニューから「切断」を選択し、「はい」を選択してください。

◆パソコンやデジタルカメラのデータを投写する

接続する外部機器の出力画面の解像度が640×480ピクセル（VGA）または848×480ピクセル（FWVGA）、リフレッシュレートが60Hzになっていることを確認してください。

- たとえばWindows XPでは「画面のプロパティ」の「設定」タブで解像度の設定を確認できます。また、「画面のプロパティ」の「設定」タブから「詳細設定」▶「アダプタ」タブ▶「モードの一覧」で表示されるモードの一覧から目的の解像度とリフレッシュレートを選択できます。詳しくは接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

1 パソコンやデジタルカメラなどの外部機器を接続する→P22

2 [入力切替ボタン]を押して入力を切り替える→P14

P14の入力モードをご確認の上、外部機器出力画面の解像度に合わせて入力を切り替えます。
接続した外部機器からの映像信号を受信し、外部機器のデータが投写されます。

3 投写を終了する場合は、プロジェクターの電源を切る

✔お知らせ

- 表面が高温となるため、ユニットカバーを取り付けてご使用ください。
- 接続する機器によっては、画面の一部が切れたり、アスペクト比が合わない画像が表示される場合があります。このような場合、パソコン側またはプロジェクターユニットの解像度を切り替えるか、ディスプレイドライバーを最新にしてください。

◆プロジェクター投写中にできること

ピント調整ホイール：画面のピントを調整

[☼]：画面の明るさを調整（5段階）

- プロジェクターの表面温度が高いと、安全のため自動的に明るさを暗くし、温度が下がるまで明るさを固定します。

故障かな？と思ったら

- まず初めに、ソフトウェアを更新する必要があるかをチェックして、必要な場合にはソフトウェアを更新してください。→P27
- 気になる症状のチェック項目を確認しても症状が改善されないときは、取扱説明書裏面の「故障お問い合わせ先」または、ドコモ指定の故障取扱窓口までお気軽にご相談ください。

●プロジェクターの電源が入らない

- 電池パックが正しく取り付けられていますか。→P17
- 電池切れになっていませんか。→P14、19

●充電ができない

- 電池パックが正しく取り付けられていますか。→P17
- 別売のACアダプタのコネクタがプロジェクターにしっかりと接続されていますか。ACアダプタの電源プラグがコンセントに正しく差し込まれていますか。→P19

●電池パックの使用時間が短い

- 電池パックの使用時間は、使用環境や劣化度により異なります。
- 電池パックは消耗品です。充電を繰り返すごとに、1回で使える時間が次第に短くなっていきます。十分に充電しても購入時に比べて使用時間が極端に短くなった場合は、指定の電池パックをお買い求めください。

●電源断が起きる

- 電池パックの端子が汚れていると接触が悪くなり、電源が切れることがあります。汚れたときは、電池パックの端子を乾いた布、綿棒などで拭いてください。
- プロジェクターの温度が高すぎる場合、安全のため自動的に電源が切れることがあります。しばらくたって温度が下がってから、再度電源を入れてください。

●投写できない

- 機器は正しく接合／接続されていますか。→P21、22
- 入力信号は正しく設定されていますか。→P25
- 接続した機器は正常に動作していますか。
- プロジェクターが対応していない信号を入力していませんか。→P30
- F-04Bと接合したままF-04Bのみ電源を入れたり切ったりすると、F-04Bにプロジェクターが認識されないことがあります。プロジェクターの電源を切って、もう一度電源を入れてください。→P20

●ピントが合わない

- レンズが汚れていませんか。
- レンズのピントが調整されていますか。→P25
- 投写距離がプロジェクターの対応範囲内になっていますか。→P15、30
- プロジェクターやスクリーンの設置角度を傾けすぎていませんか。→P15

●画像が乱れる

- アナログRGBケーブルを使っているときに、電池残量がほとんどなくなっていませんか。→P19

●画面が暗くなる

- プロジェクターの温度が高すぎる場合、自動的に明るさを暗くし、明るさの変更ができなくなります。温度が下がると、明るさを変更できます。

ソフトウェア更新

パソコンで更新用ソフトウェアをダウンロードし、別売のFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02またはFOMA USB接続ケーブルでプロジェクターと接続すると、プロジェクターのソフトウェアを更新することができます。
更新用ソフトウェアは下記のホームページからダウンロードできます。
http://www.fmworld.net/product/phone/download/f-04b/projector/
- URLおよび掲載内容については、将来予告なしに変更することがあります。

❖ 動作環境について

項目	必要環境
パソコン本体	PC/AT互換機 USBポート（USB仕様1.1／2.0に準拠）
OS（各日本語版、32ビット版）	Windows XP、Windows Vista、Windows 7

- 動作環境の最新情報は、更新用ソフトウェアのダウンロードページでご確認ください。
- OSをアップグレードした場合の動作は保証いたしかねます。
- 動作環境によってはご使用になれない場合があります。また、上記の動作環境以外でのご使用について、当社では責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

◆ ソフトウェアを更新する

1 パソコンでサイトから更新用ソフトウェアをダウンロードする

2 更新用ソフトウェアを実行する

3 画面の指示に従って、プロジェクターの電源を入れ、パソコンとプロジェクターをUSBケーブルで接続する

- プロジェクターの外部接続端子の端子キャップを開き、USBケーブルのプロジェクター側のコネクタを差し込みます。続いてUSBケーブルのパソコン側のコネクタをパソコンのUSBコネクタに差し込みます。

4 画面の指示に従ってソフトウェアを更新する

✔**お知らせ**

- USBケーブルを無理に引き抜こうとすると故障の原因となります。また、ソフトウェア更新中にUSBケーブルを外すと、誤動作やデータ消失の原因となります。
- ソフトウェア更新は、電池をフル充電して、電池残量が十分にある状態で実行してください。

保証とアフターサービス

◆保証について

- プロジェクターをお買い上げいただくと、保証書が付いていますので、必ずお受け取りください。記載内容および「販売店名・お買い上げ日」などの記載事項をお確かめの上、大切に保管してください。必要事項が記載されていない場合は、すぐにお買い上げいただいた販売店へお申し付けください。無料保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
- この製品は付属品を含め、改良のため予告なく製品の全部または一部を変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

◆アフターサービスについて

修理を依頼される前に、本書の「故障かな？と思ったら」をご覧になってお調べください。それでも調子がよくないときは、取扱説明書裏面の「故障お問い合わせ先」にご連絡の上、ご相談ください。
お問い合わせの結果、修理が必要な場合は、ドコモ指定の故障取扱窓口にご持参いただきます。ただし、故障取扱窓口の営業時間内の受付となります。なお、故障の状態によっては修理に日数がかかる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

保証期間内は

- 保証書の規定に基づき無料で修理を行います。
- 故障修理を実施の際は、必ず保証書をお持ちください。保証期間内であっても保証書の提示がないもの、お客様のお取り扱い不良（レンズ・コネクタなどの破損）による故障、損傷などは有料修理となります。
- ドコモの指定以外の機器および消耗品の使用に起因する故障は、保証期間内であっても有料修理となります。

次の場合は、修理できないことがあります。

- 故障取扱窓口にて水濡れと判断した場合
- お預かり検査の結果、水濡れ、結露・汗などによる腐食が発見された場合や、内部の基板が破損・変形していた場合（外部接続端子・レンズなどの破損や筐体亀裂の場合においても修理ができない可能性があります）

※ 修理を実施できる場合でも保証対象外になりますので有料修理となります。

保証期間が過ぎたときは

- ご要望により有料修理いたします。

部品の保有期間は

- プロジェクターの補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造打ち切り後6年間を基本としております。ただし、故障箇所によっては修理部品の不足などにより修理ができない場合もございますので、あらかじめご了承ください。また、保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能なことがありますので、取扱説明書裏面の「故障お問い合わせ先」へお問い合わせください。

オプション・関連機器のご紹介

地域によってお取り扱いしていない商品もあります。詳細は、ドコモショップなどの窓口へお問い合わせください。また、オプション品の詳細については各機器の取扱説明書などをご覧ください。

- FOMA ACアダプタ 01／02
- FOMA DCアダプタ 01※1／02※1
- FOMA 乾電池アダプタ 01※2
- 電池パック F10
- ユニットカバー F01
- ユニット用バッテリーカバー F01
- FOMA USB接続ケーブル※3
- FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02※2、3
- FOMA 補助充電アダプタ 01※2
- FOMA 海外兼用ACアダプタ 01※4

※1 プロジェクターの電源が入っている場合は消費電力が充電される電力より多くなるため満充電になりません。

※2 プロジェクターの電源が入っている場合は充電できません。

※3 USB HUBを使用すると、正常に動作しない場合があります。

※4 日本国内で使用してください。

主な仕様

プロジェクター

品名	プロジェクターユニット F01
サイズ	高さ約114mm×幅約51mm×厚さ約16.4mm （最薄部：約13.0mm）
質量	約88g
充電時間※1	ACアダプタ：約150分 DCアダプタ：約150分
光学系基本方式	DLP方式プロジェクター
光源	3色LED
解像度	フルワイドVGA（854×480ドット）
明るさ※2	〈F-04B接合時、Bluetooth接続時、ビデオケーブル接続時〉 最高：約9lm　高：約7lm　標準：約6lm　低：約4lm 最低：約2lm 〈アナログRGBケーブル接続時〉 最高：約6lm　高：約5lm　標準：約4lm　低：約3lm 最低：約2lm
連続投写時間※3	約120分（明るさ「標準」の場合） 約160分（明るさ「最低」の場合）
ピント調整	ダイヤル式
スクリーンサイズ	約5inch～約66inch
投写距離	約23cm～約320cm
オフセット機能	あり
Bluetooth機能	F-04BとのBluetooth接続にのみ使用可
インターフェイス（映像信号）	F-04Bとの接合時：ユニット接続端子（NTSC） F-04BとのBluetooth接続時：Bluetooth転送（SPP） 外部入力時：ビデオ入力（NTSC）／アナログRGB※4

※1　充電時間とは、プロジェクターの電源を切って、電池パックが空の状態から充電したときの目安です。プロジェクターの電源を入れて充電した場合、充電時間は長くなります。
※2　明るさを「最高」「高」に設定して使用中にプロジェクターの表面温度が高くなると、自動的に明るさが「標準」に切り替わり、プロジェクターが十分に冷えるまで明るさ設定が固定されます。
※3　F-04Bと接合して投写した場合の使用時間です。
※4　すべての機器での出力を保証するものではありません。
本製品は、以下の種類のアナログRGB信号に対応しています。

解像度	モード	リフレッシュレート（Hz）	水平周波数（kHz）	クロック（MHz）
640×480	アナログRGBケーブル（VGA）	59.94	31.47	25.18
848×480	アナログRGBケーブル（FWVGA）	60.00	31.02	33.75

電池パック

品名	電池パックF10
使用電池	リチウムイオン電池
公称電圧	3.7V
公称容量	870mAh

輸出管理規制

本製品及び付属品は、日本輸出管理規制（「外国為替及び外国貿易法」及びその関連法令）の適用を受ける場合があります。また米国再輸出規制（Export Administration Regulations）の適用を受けます。本製品及び付属品を輸出及び再輸出する場合は、お客様の責任及び費用負担において必要となる手続きをお取りください。詳しい手続きについては経済産業省または米国商務省へお問い合わせください。

商標

- 「FOMA」「ｉモーション」「ｉアプリ」「公共モード」は、NTTドコモの登録商標です。
- Microsoft®、Windows®、Windows Vista®、PowerPoint®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Microsoft Excel、Microsoft Wordは、米国のMicrosoft Corporationの商品名称です。本書ではExcel、Wordのように表記している場合があります。
- フリーダイヤルサービス名称とフリーダイヤルロゴマークはNTTコミュニケーションズ株式会社の登録商標です。
- Bluetooth®とそのロゴマークは、Bluetooth SIG, INCの登録商標で、株式会社NTTドコモはライセンスを受けて使用しています。その他の商標および名称はそれぞれの所有者に帰属します。
- DLPおよびDLP®ロゴは、テキサス・インスツルメンツの商標です。
- その他、本取扱説明書に記載されている会社名や商品名は、各社の商標または登録商標です。
- 本書では各OS（日本語版）を次のように略して表記しています。
  - Windows 7は、Microsoft® Windows® 7(Starter、Home Basic、Home Premium、Professional、Enterprise、Ultimate)の略です。
  - Windows Vistaは、Windows Vista®（Home Basic、Home Premium、Business、Enterprise、Ultimate）の略です。
  - Windows XPは、Microsoft® Windows® XP Professional operating systemまたはMicrosoft® Windows® XP Home Edition operating systemの略です。
  - Windows 2000は、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating systemの略です。

索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

ヤ行

ラ行

英数字・記号

総合お問い合わせ先〈ドコモ インフォメーションセンター〉

取扱説明書に不明な点がございましたら、下記のところまでお問い合わせください。

■ドコモの携帯電話からの場合

（局番なしの）**151**（無料）

※一般電話などからはご利用になれません。

■一般電話などからの場合

0120-800-000

※携帯電話、PHSからもご利用になれます。

○ダイヤルの番号をよくご確認の上、お間違いのないようにおかけください。

故障お問い合わせ先

故障、異常かなと思われたら、下記のところまでお問い合わせください。

■ドコモの携帯電話からの場合

（局番なしの）**113**（無料）

※一般電話などからはご利用になれません。

■一般電話などからの場合

0120-800-000

※携帯電話、PHSからもご利用になれます。

○ダイヤルの番号をよくご確認の上、お間違いのないようにおかけください。

販売元　株式会社NTTドコモ
製造元　富士通株式会社

'10.4(1.1版)
CA92002-5784